

長崎県技術士会の広報活動

～長崎大学社会環境デザインコースの学生 へのPR活動～

長崎県技術士会 理事 園田直志

長崎県技術士会は平成27年(2015)度から、長崎大学工学部社会環境デザインコースの学生に「技術士」の広報活動を行っています。今年度は、構造工学科の2年生も同時に聴講しました。因みに社会開発デザインコースも構造工学科も JABEE 認定プログラムです。

当技術士会の顧問である岡林隆俊名誉教授の後押しもあり、平成27年9月8日に大学教員との意見交換会を経て毎年1回「技術士」PR活動を継続しています。過去の実施内容は、APREN 53、56、61号で報告しています。

平成30年度は、平成31年1月24日に4回目の広報講義を実施しましたので過去のアンケート結果と比較しながら技術士会のPR活動を分析しました。講師の方々には、講義内容や感想についてご投稿を頂きましたのでこれらの活動にプラスになればと思います。



写真-1 講義風景

講演内容は、例年のように

(1) 「技術士」制度について

講師1: 長崎県技術士会会長 山口和登

(2) 「技術公務員と技術士」

講師2: 長崎県県央振興局 岡本征大

(3) 「建設コンサルタント業と技術士」

講師3: 扇精光ンサルタンツ(株) 中川剛樹

上記三人の講師で実施しました。

(1) アンケート集計結果

平成30年度の講義についての学生アンケートを集計した。

総出席者は分からぬが、アンケート回収総数は39名である。昨年度(第3回 2017年度41名)とほぼ同数であった。質問項目1で将来の進路志望を聞いているが、まだ未定の学生なのが重複回答が6名あった。

学生構成は、社会環境デザイン工学コース3年生と構造工学コース2年生と考えられる。質問項目13&14については学生の意見傾向を集計してまとめた。

(1) 質問項目1(将来の希望進路)について
聴講学生の希望進路について第一回～第四回の集計結果を比較した。

2015 年度		2016/1/5				
第1回	1	<input type="checkbox"/> コンサルタント系	<input type="checkbox"/> 建設業(ゼネコン)	<input type="checkbox"/> 公務員(技術者)	<input type="checkbox"/> 研究(大学院)	<input type="checkbox"/> その他【橋梁メーカー1・鉄道1】
		2	4	9	5	2
		9%	18%	41%	23%	9%

22

2016 年度		2016/12/8				
第2回	1	<input type="checkbox"/> コンサルタント系	<input type="checkbox"/> 建設業(ゼネコン)	<input type="checkbox"/> 公務員(技術者)	<input type="checkbox"/> 研究(大学院)	<input type="checkbox"/> その他-複数1【橋梁メーカー1、映画配給】
		5	6	9	1	2
		22%	26%	39%	4%	9%

23

2017年度 第3回		2018/1/17				
項目	回答数	□コンサルタント系	□建設業(ゼネコン)	□公務員(技術者)	□研究(大学院)	□その他【公務員事務1、複数2】
1	41	8	6	23	1	3
		20%	15%	56%	2%	7%

2018年度 第4回		2019/1/24				
項目	回答数	□コンサルタント系	□建設業(ゼネコン)	□公務員(技術者)	□研究(大学院)	□その他【公務員事務1、複数2】
1	4	5	14	12	9	5
	重複6(39)	11%	31%	27%	20%	11%

過去1～3回の志望別から比較して、40～60%の公務員志望が減少し、建設業や研究志望が増えている。学生優位の売り手市場のような社会情勢の変化から、公務員志望から民間や研究志望への傾向が読み取れるようである。

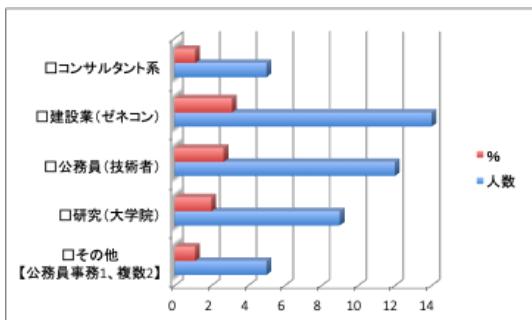


図-1 2018年度の進路志望分布図

(2) 質問項目2～12について

項目2(技術士資格の認知)について大学入学前や2年生から知っていた学生が増えていることは、技術士資格の広報が社会に拡散していることと考える。

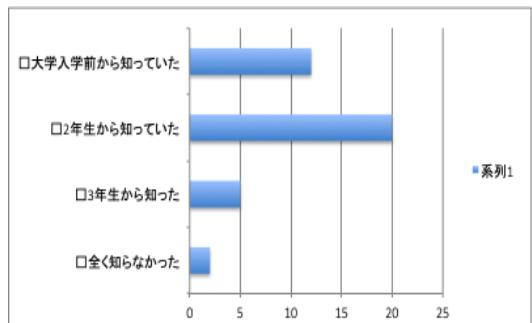


図-2 項目2の分布図

項目3(技術士についての研修機会)は、当講習が初めての学生もいる。当研修会が貢献していることと考える。

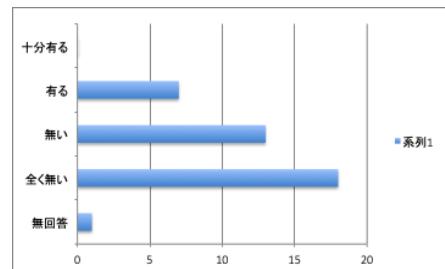


図-3 項目3の分布図

項目4(技術士資格制度の理解)、項目5(講義1:技術士制度)、項目6(講義:2技術公務員と技術士)、項目7(抗議3:建設コンサルタントと技術士)、項目8(技術士資格の取得希望)などはいずれも好印象を与えて、学生には有意義なものとの反応があった。

項目9(他の技術士部門の研修希望)は、全体的にバラツキが見られる。他の技術部門への興味の喚起あるいは広報はこれからと考える。

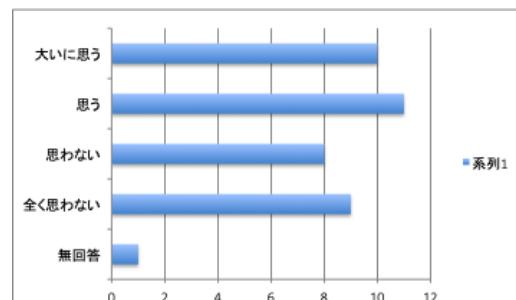


図-4 項目4の分布図

(3) 質問項目13(講義の印象と意見)

31名の学生が下記のような意見を述べている。

- ・技術士を取得することがゴールではなく、技術士を取得することで個人の技術や知識の向上を狙える。また責任が重くなるという事が印象に残った。
- ・技術士の取得は若い頃から目指したほうが良いという事が分かった。公務員になる場合でも受注者と対等な立場になるために資格を取得するべきであることが分かった。

これらの学生の意見傾向を集計したので下記に示す。

(ア) 技術士資格は、手段であって目的ではない。スタ

一トである	——6名	新制などが議論されて急速な変革が求められています。
(イ) 技術士資格の必要性と取得希望が高まった—12名		
(ウ) 技術士の合格率に関して。 ——4名		アンケート意見にもあるように、技術士会々員の皆様も学生たちの意見・要望に応えて見ませんか。長崎県技術士会のPR活動を通して長崎大学の技術者教育の現場に参加させて頂き、関係者の皆様に感謝します。国際的に通用する優秀な技術者が少しでも多く長崎から輩出されることを望みます。
(エ) JABEE認定プログラムに関して。 ——5名		
(オ) 技術者としての責任&研鑽その他に関して—10名		
(4) 質問項目14 (技術者への将来について、自由な意見)		以上
下記のような21名の学生の意見が集まった。		
・ A1に置き換わって必要なくなってしまうのでは無いかと不安があります。		
・ これから我々が社会人として土木・建設業で働く上で生きやすい世の中になると良いと思った。またそういう世の中にして生きたい。		長崎大学での講演を終えて (1)
・ 発注者や同じ会社の人の信頼を得るために技術者の資格を取得したいと思った。なぜ JABEE認定プログラムが始まったのか知りたい。		県央振興局建設部 (諫早市都市政策課へ出向) 主任 岡本征大 (建設部門)
これらの学生の意見傾向を集計したので下記に示す。		
(ア) 技術者としての将来性&希望。 ——6名		長崎県技術士会が主催する第4回目の長崎大学講演会に「技術公務員と技術士」という題目で講演させて頂きました。私は、平成30年4月1日付の人事異動により諫早市役所に出向中ですが、出向して日が浅いため、県の技術公務員としての立場から講演をさせていただきました。具体的な講演内容を、この場をお借りしてご報告させていただきます。
(イ) 技術士試験への質問。 ——3名		
(ウ) 技術者一般その他。 ——5名		
(5) まとめ		1. 長崎県土木部の紹介
JABEE制度は2001年度から始まり既に17年を経過しました。筆者も技術士資格制度とJABEE制度の変革について理解を深めるため2016年度から「JABEE認定プログラムの審査員」制度に参加しながら、2019年度から多くの高等工学教育部門では情報技術(IT)に関する審査項目が加わり、大きく変革することを学んでいます。		毎年、長崎県土木部が発行する「土木部の概要」の平成30年度版をベースに、長崎県土木部の紹介を行いました。主に土木部の組織と人員、予算の内訳について話しましたが、特に土木部関係職員の6割以上が、県庁ではなく地方機関に配属されていること、土木部予算を土木部技術職員数で単純に割った場合、年間1人当たり2億円近くを取り扱うことを紹介しました。
その中で文部科学省の「第5期～第9期の技術士分科会」議事録や(公社)日本技術士会の「技術士制度改革について(提言)中間報告、その1、その2(H30)」を拝見することになりました。		
技術者としての国際的通用性や技術士資格の更		



写真-2 講演2

2. 技術公務員の仕事

技術公務員の仕事の概要、技術職員に求められるもの、県の公共事業の流れなどを話しました。話した内容は、税金を使って事業を行うにあたっては、専門的知見をもって分かりやすく事業の必要性などを県民に説明する責任があることや、地方機関では公共工事の発注が主な仕事であるが、技術公務員は公共事業全ての過程に携われる唯一の存在であり、やりがいを感じることができるという思い、などです。

3. これまで関わった業務の紹介

これまでに私が携わってきた業務の中から2例をピックアップし、イラストや写真などを使って業務の紹介をしました。

1) 都市計画道路 平瀬町干尽町線

佐世保駅みなと口に接して延びる平瀬町干尽町線の街路整備工事について紹介しました。中心市街地での工事であり、地域住民や道路利用者への配慮がより求められることや、利便性の高い街路が完成したことで、沿道に「させぼ五番街」などの大型店舗の立地が促進されたことを話しました。さらに、させぼ五番街オープンから5年で、街路の通行量が大幅に増え街に賑わいが創出されたという内容の新聞記事を紹介し、自分が携わった業務が公に紹介されると喜びを感じることができることを伝えました。

2) 百花台公園

島原半島の中ほどに位置する百花台公園は、平成29年度に拡張を終え竣工しました。百花台公園の竣工を記念して平成29年12月に式典を開催しましたが、私は、式典の企画立案、関係団体との調整、当日のマネジメント業務などを手がけたことを話しました。技術公務員は、インフラ整備を仕事にするだけではなく、県民に末永く施設を利活用していただくため、広報活動等のソフト施策にも重点を置いていました。

4. 技術士取得の動機

県職員である私が、技術士を取得した動機を話しました。県職員の場合、現段階では技術士資格を持っていても、給料が上がるとか、より質の高い仕事を任せられるとか、目に見えたインセンティブがなく、人によっては「公務員で技術士になるのは自己満足だ。」と言われる方もいます。私は、単に技術士になりたかったのではなく、公務員でも技術職という以上は、自分の仕事に責任を持ち、社会に通用できる技術者であるという義務があり、その能力を証明するツールとして「技術士」があると考え取得したことを話しました。また、私たち技術公務員は、技術士をはじめとした資格を保有する民間技術者と一緒に仕事をし、業務完了後は受注者の評価を行いますが、これらを行って値する能力を磨くために自己研鑽に励み、研鑽の成果が認められ「技術士」という称号を与えられたと思っていたということを伝えました。

5. 学生へのメッセージ

修習技術者となる学生にアドバイスを行いました。私の経験やこうあれば良かったという思いを踏まえて伝えました。主な内容は、科学技術は常に更新されるため自己研鑽を継続すること、技術士の取得は手段であって目的ではないこと、思

通りの人事でなくとも与えられた場所で何ができるかを考えること、何事も経験と捉え積極的に専門外の知識や経験を習得すること、などです。

6. 最後に

限られた時間でできるだけ多くの情報を提供したいという思いから早口になるなど、学生は聞きづらかったのではないかという不安がありました。が、県技術士会が実施した学生アンケートの結果を見ると、概ね内容を理解していただけたようで、安心しました。アンケートでは、「技術士資格の必要性と取得希望が高まった。」という前向きな意見が多く、講演の目的は一定果たせたのではないかと考えます。また、「技術公務員は無資格でも監督員になれるのを知った。」「技術公務員でも工事だけでなく、広報活動等のソフト事業ができるのを知り、働きたくなつた。」「公務員になつても受注者と対等な立場であるために資格を取得するべきだと感じた。」といった様々な感想があり、私たちの仕事や思いを伝える機会をえていただいだ県技術士会に感謝をしております。また、今回の講演は、私自身にとっても改めて自らを振り返ると共に今後のキャリアを考えるきっかけとなり、有意義なものとなりました。学生の皆さん、今後のキャリア形成と、技術士資格普及のお役になれば幸いです。

長崎大学での講演を終えて（2）

扇精光コンサルタント（株） 中川 剛樹

私は、長崎県技術士会が主催する第4回目の長崎大学講演会において「建設コンサルタント業と技術士」という題目で講演させて頂きました。講演の内容としては、建設コンサルタントという仕事について、会社紹介、建設コンサルタントに技術士が必要な理由、技術士取得までの道のり等を

お話しさせて頂きました。

まず、「建設コンサルタントという仕事について」の内容としては、公共事業における建設コンサルタントの立ち位置や役割、携わる仕事内容等について簡単に説明させて頂きました。日常において当たり前のように利用されている道路、橋梁、トンネル、水道設備等の社会インフラは公共事業に携わるたくさんの技術者に支えられて成り立っているということを理解して頂ければという思いでお話しさせて頂きました。

「会社紹介」及び「仕事内容」については、弊社の事業内容や取り組んでいる分野、私が所属する部署における具体的な作業内容等を説明させて頂きました。本講演の主目的からは若干離れた内容かとは思いましたが、長崎県内への就職希望者が少しでも弊社に興味を持って頂ければということを期待してお話しさせて頂きました。



写真-3 講演3

「建設コンサルタントに技術士が必要な理由」については、国家資格が社会的には認知度の低い技術士という国家資格ではあるが、公共事業に携わる上では、必要不可欠な資格であることを学生の頃から知っておいてもらいたいという思いでお話しさせて頂きました。実際、私自身が学生の頃は技術士についての理解はほとんどしておらず、必要な資格なのか、どのような資格なのか、どうしたら取得できるのか等全く知りませんでした。

社会人として働き出してから前述したような技術士の必要性を知り、技術士の取得を目指しました。

「技術士取得までの道のり」では、JABE認定されていることが技術士取得に対してどれほど有利なのか、日々の業務を行いながら技術士取得へ向けた学習をどのように行ってきたか、会社としてはどのような支援体制があるか等について説明させて頂きました。JABE認定学科を卒業することで第一の関門である第一次試験が免除されるため、比較的若い間に技術士を取得できる可能性が高くなることを理解して頂けていたらと思い、お話しさせて頂きました。

自分自身の学生時代にはこのように実務を行っている方からの講演を聞く機会などはなく、同じ長崎大学を卒業した先輩に直接話を伺う以外に方法はありませんでした。

このような講演の場は学生にとってなかなか経験することができない有意義な場であり、今後もぜひ継続していくべきではないかと思います。ただ、講演会という形式では質問の時間は設けられても、なかなか自ら挙手して質問するということ

は難しく、聞きたいことも聞けないという学生もいるのではないかと思います。そのため、座談会形式などもっとお互いにざっくばらんに話せるような場にできればさらに有意義なものになるのではないかと思いました。

今回の講演を終えて、アンケート結果を拝見させて頂きましたが、45名中5名（約11%）の学生がコンサルタント系希望ということでした。

公務員や建設業（ゼネコン）に比べて低い数値であり、少し残念には思いましたが、それぞれが希望する職業に就き、積極的に働くことが一番大切なことだと思うので、自分の希望に向けて頑張って頂きたいと思いました。また、受講した半数以上の学生から「講演の内容が理解しやすかった」、「技術士資格を取得したい」、「本研修会が有意義であった」という評価を頂くことができ、講演が少しでもこれから就職や資格取得の役に立てれば幸いに思います。

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

（1）新入会員のお知らせ（3月承認）

（区分）	（氏名）	（部門）	（所属）
A会員	比良章吾	建設	長崎市

（2）令和元年度の総会・研修会を6月8日に諫早観光ホテル道具屋で予定しています。詳細は後日お知らせいたしますが多くの会員の参加をお願い致します。

（3）新年度に際して、所属の変更や連絡先などの変更があることと思います。新しい年度（令和元年）版の会員名簿を編集中です。職場や所属組織の変更および部門等の追加があった方々は、事務局または下記へ連絡頂きますようお願い致します。

機関紙発行担当の連絡先 園田直志
sonoda_naoshi@icloud.com